

データキャッシングから社内情報の配信まで

ポイントキャスト 放送ツール登場



ポイントキャスト社がイントラネットでの情報配信に焦点をあてたツール群をリリースする。これらの製品を使うと全社のポイントキャストクライアントの一括管理を可能にし、社内向けに独自のチャンネルを使って情報配信することができ、さらにネットワークの負荷も軽減できるという。しかもすべての製品が無償で提供され、同社のWWWサーバーから入手できる。今回はこれらの製品の実際の利用価値について使用感を交えて解説する。

本田雅一

ポイントキャストイントラネット放送ツール入手先
URL : <http://www.pointcast.ne.jp/products/intranet/>

イントラネットで活用できるポイントキャストネットワーク

ポイントキャストの イントラネット向けツール登場

ポイントキャストネットワークの日本語コンテンツも徐々に充実し、ニュースを受信するツールとしての有用性も実感できるようになってきた。ウェブをベースにしたポイントキャストのシステムはシンプルかつ確実に新しいニュースを受信できるため、ユーザーがウェブから情報を探し出す手間を省いてくれる。

このシステムを社内向けにイントラネットを使って配信すれば社内通達を全社一斉に配信できる。うれしいことに、3月下旬よりポイントキャスト社は無償でこのイントラネット向けツールを提供する（一部2月下旬にリリース済み）。

イントラネット放送に必要な ツールは3つ

イントラネット向けに提供される製品は4つで、そのうち社内放送のために使うツールは3つある。まずはその概要を見てみよう。

ポイントキャストネットワークのプロキシサーバーの設定やコンテンツへのアクセス制限、最初に開くチャンネルなどは管理者側で一括設定しておきたい。特にプロキシ

サーバーの設定方法を社員1人1人に設定してもらうのは容易なことではない。「ポイントキャスト・アドミニストレータ」はそうしたクライアント管理を行うツールである。

さらに、社内向けの情報をポイントキャストネットワークで配信したいという希望も少なくない。そのためにチャンネルを構成するドキュメントを登録、管理するツールが「ポイントキャスト・イントラネット放送マネージャ」である。

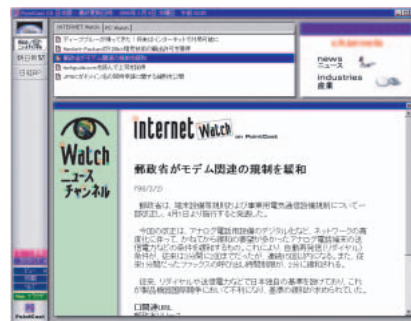
ポイントキャストネットワークで配信されるドキュメントはHTMLにより記述されるが、ほかにもスクリーンセーバーとして起動するスマートスクリーンや広告表示を行うアニメーションのエリアもある。この部分を作成するための「ポイントキャスト・スタジオ」が用意されている。

さらにトラフィック管理の ツールも用意

もう1つのイントラネット向け製品である「ポイントキャスト・キャッシュマネージャ」も非常に重要なツールだ。

ポイントキャストネットワークは圧縮画像やコンテンツのカタログ化などにより、1日の配信データ量が1Mバイト以下に抑えられているという。しかし、ユーザーが増えてく

ると、その少ないトラフィックも無視できなくなる。ポイントキャスト・キャッシュマネージャはコンテンツをキャッシュし、トラフィックを最適化することで回線への負荷を最小限に抑えようというものだ。ポイントキャストネットワークのトラフィックを最適化するツールとして、イントラネットへの導入時には不可欠のものといえそうだ。



ポイントキャストネットワークの画面
ダウンロード先
URL : <http://www.pointcast.ne.jp/download/>

DNSの設定を必要とする アドミニストレータ

すでにポイントキャストネットワーククライアントを社員に配布している企業ユーザーもいるだろうが、ここでは今回発表されたツール群を利用した典型的な導入手順を考えてみたい。

まずポイントキャスト・アドミニストレータの導入を行うことをすすめる。プロキシサーバーの設定だけでなく、フィルタリングなど多くの設定を社内のユーザーに対して行うことができる。また、社内チャンネルを実現するうえでもポイントキャスト・アドミニストレータの導入は必須だ。

ポイントキャストネットワーク2.0クライアントは起動時にhttp://pcnadmin/pcn/というURLを参照し、そこにある管理情報ファイルを参照することで自身の振るまいが変更されるようになっている。ポイントキャスト・アドミニストレータを導入する際には社内のDNSの設定でWWWサーバーにpcnadminという名前を与え、pcnというディレクトリーを作る必要がある。この結果、社内DNSサーバーを参照するポイントキャストネットワーククライアントは管理情報を自動的にダウンロードし、管理者の設定したおりの振る舞いをするようになる。

導入にはDNSの設定が必要となるので、ネットワーク管理者のようにそれなりの知識を持つ人が社内にいることが前提となっている。

ネットワークの専門知識が必要な トラフィック管理

次に社員の利用状況を見ながら、ポイントキャスト・キャッシュマネージャの計画を練る。前述したようにポイントキャストネットワークのネットワーク負荷は大きなものではないので、ダイヤルアップルーターを利用していたり、社員数と比較してインターネットへの回線が細かったりする場合などを除けば、ポイントキャスト・キャッシュマネージャは最小限の構成で構わないだろう。大規模ユーザーの場合はネットワーク負荷を軽減させるために、ネットワーク全体を見

ながら導入を検討しなければならない。これはある程度高度なネットワーク管理知識が必要とされる作業となる。

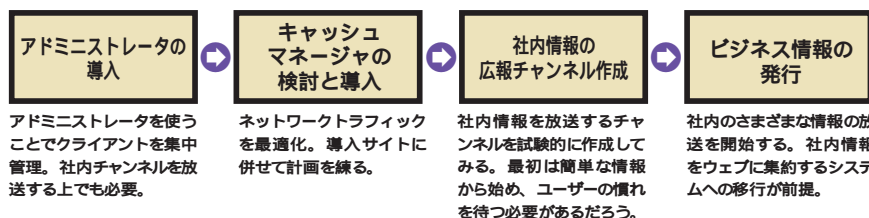
ツールを使えばチャンネルは すぐできる

社内放送に向けて社内チャンネルをすることはそれほど難しい作業ではない。イントラネット放送マネージャを使えばチャンネルの構成を自由に変更できる。WWWサー

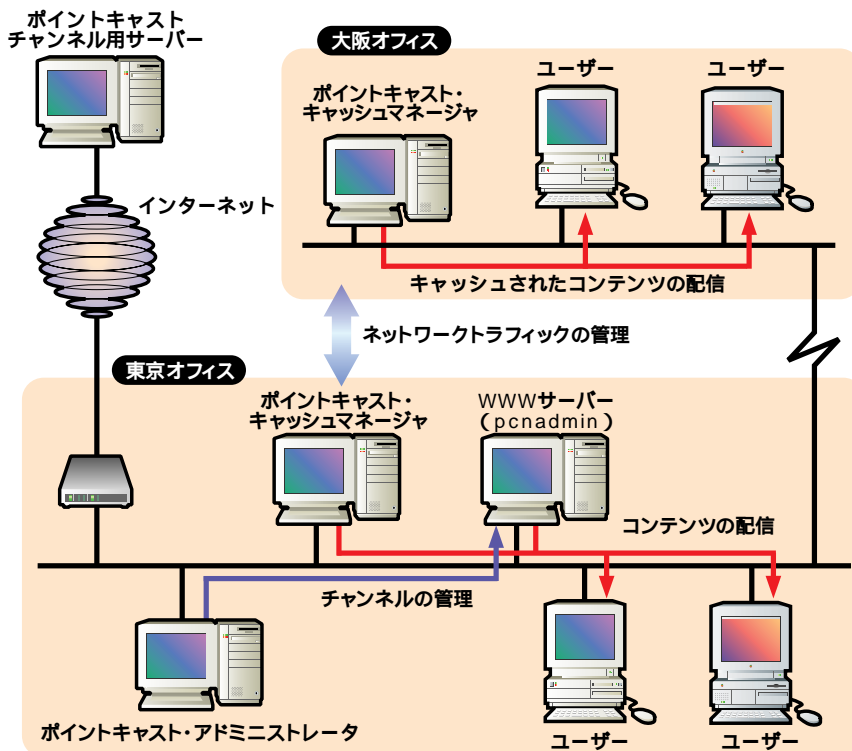
バー上のドキュメントをチャンネルの中に登録すれば、そのドキュメントが自動配信される。もし、広告アニメーションやスマートスクリーンを作りたいと考えるならば、ポイントキャスト・スタジオで作成しておけばいい。

このようにある程度ツール類を使うのは簡単であるが、本格的導入にはネットワークの知識やウェブアプリケーションに関する知識が必要となる。

ポイントキャストイントラネット向けツール導入の流れ



ポイントキャストイントラネット用ツールの導入例



アドミニストレータでクライアントを一括管理

ポイントキャスト・アドミニストレータが動作する条件についてはすでに述べた。ここではこのツールを使ってどのような設定ができるかを具体的に説明しよう。

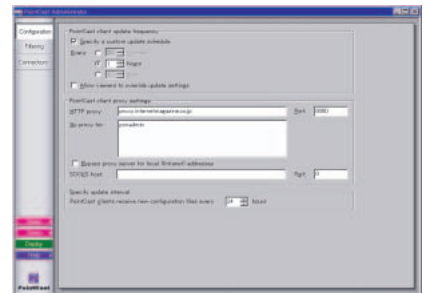
まずクライアントがコンテンツの更新確認を行う頻度を指定できる。指定は分単位、時間単位、日単位で行うことが可能で、これによりある程度ポイントキャストネットワークの消費するネットワーク帯域を制限できるだろう。プロキシサーバーの設定は、HTTPとSOCKSのプロキシサーバーを別々に指定でき、HTTPに関しては直接接

続するホスト名の指定もできる（右図）。また、ポイントキャスト・アドミニストレータで指定した設定をクライアントが読み直す頻度も、時間単位で設定できる。

フィルタリング機能ではチャンネルと広告アニメーションの両方をそれぞれ5つまで配信しないように設定できる。ポイントキャストのビジネスモデルはニュース配信サービスにおける広告収入によって成り立っているため、チャンネル、広告アニメーション共に5つまでしかフィルタリングできないようだ。

また、標準チャンネル以外のチャンネルをユーザーに対して見せることもできる。もちろん、その中には社内チャンネルもあるだろう。社内向けに作成したチャンネルは、

ポイントキャスト・アドミニストレータでユーザーへの公開を設定することで初めて放送される。



ウェブ上で操作できる。上図はポイントキャスト・アドミニストレータの画面。

放送マネージャがあればチャンネル作りは意外と簡単

チャンネルの作成を行うポイントキャスト・イントラネット放送マネージャも誰にでも手軽に扱えるように設計されている。まず作成するチャンネルの名前を付け、チャンネルで使われる広告アニメーションやスマートスクリーンを登録する。チャンネル内は階層化されていてチャンネルの下にカテゴリーがあり、カテゴリーの下にグループがある。ユーザーにわかりやすいようにカテゴリーやグループを作る。

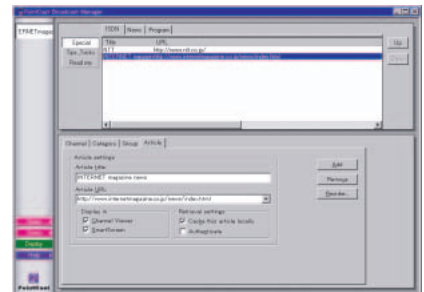
そして、グループに対して割り当てるコン

テンツ（記事）を登録する。記事のタイトルと記事が収められているURLを記述し、各種オプション（チャンネルビューアーに表示させるか、スマートスクリーン内に表示させるかなど）を指定するだけだ。

グループの設定では登録しているコンテンツを更新する頻度の指定ができる。つまり、更新頻度の高いものや低いものをチャンネル作成時に決めておくことができる。

このように操作そのものは非常に簡単なのだが、記事を1つ1つ登録する必要がある、記事数が増えてくるとそれを管理するのは容易ではない。多くのコンテンツを最新に保つためには、別途自社コンテンツを自動

生成するようなシステムを開発する必要がありそうだ。



チャンネルの作成はチャンネル、カテゴリー、グループを作り、グループにコンテンツを割り当てる。配信したいコンテンツは手動で登録しなければならないので、頻繁に更新したい場合は工夫が必要。

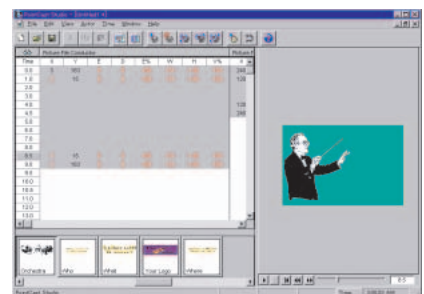
マルチメディアオーサリング感覚のアニメーションコンテンツ作り

広告アニメーションやスマートスクリーンは、マルチメディアオーサリングツールに似たポイントキャスト・スタジオというツールで作成することができる。スタジオには広告アニメーション、スマートスクリーン双方のテンプレートが豊富に用意されているため、ほとんどの場合はこれらをカスタマイズするだけで見栄えのするアニメーションを作成できる。

アクターと呼ばれるオブジェクト（文字やグラフィックなど）を登録し、タイムテーブル上でアクターの振り舞いを指定してアニメーションを作成する。たとえば、左上からタイトルグラフィックが現れ、4秒後に右下でストップするという広告アニメーションを作る場合、タイトルグラフィックのアクターを表示させるアニメーションの左上に置き、タイムテーブル上で4秒後に右下に置くように指示すればいい。実際に使ってみればすぐにマスターできるはずだ。

作成したアニメーションはGIFファイルと

XMLベースのタグファイルで記録され、チャンネルに登録することで利用できる。



複雑な操作を必要としないので、比較的簡単に広告アニメーションやスマートスクリーンを作れる。

さまざまな可能性があるイントラネット向けツール

ネットワークトラフィックの軽減だけでも使う価値はある

ここまでポイントキャストのイントラネット放送ツールの概要について説明してきたが、ここでは実際の活用例について述べてみたい。

前述のようにポイントキャストネットワークの1日のコンテンツ配信データ量は1Mバイト以下であるが、社員数が多ければ少ないトラフィックも無視できなくなる。ユーザーが100人いれば1日のデータ転送量は100Mバイトにもなる。

ポイントキャスト・キャッシュマネージャの導入はこの問題を一気に解決してくれる。ポイントキャストネットワークのコンテンツは各ユーザーごとに配信されるが、これらが社内のキャッシュサーバーに一度でも蓄積されるとほかの全ユーザーはキャッシュサーバーからコンテンツを受け取れるのだ。しかも無償で提供されているツールであれば使わない手はない。

このようにイントラネット向けに独自チャンネルを放送しなくてもポイントキャストのイントラネット向けツールを使うメリットはある。

アクセスされないイントラネットウェブの解決策

イントラネットでウェブを使って社内情報

を提供している企業も多いだろう。社内ウェブが活用されれば情報も活性化し、アクセス数は増加していくに違いない。しかし、ウェブはあくまでもユーザーが見に行かなければならないのでユーザーが習慣化しなければアクセス頻度も下がっていく。この解決策としてポイントキャストネットワークを使って情報の配信を行う。

たとえば、全社にポイントキャストネットワークを導入すれば、「月日は健康診断の日です」、「毎月日は精算締め切りの日です。精算書提出はお早めに」など、ちょっとしたことでも確実に放送できる。

しかもポイントキャストネットワークのシステムはHTMLドキュメントを配信するため、今までかかっていた作業に多少の手間をかけるだけでできてしまう。またスマートスクリーンやティッカーといったポイントキャスト独自のコンテンツを作ればさらなる効果も期待できる。

大企業での情報共有にも有効

さらに大企業になれば、各部門間での情報共有が薄くなる。総務や人事といった全社的に情報を配信する必要がある部署だけでなく各部門でチャンネルを作成すれば、社内動向を把握するのにこれほどいいツールはない。

クライアント管理のポイントキャスト・アドミニストレータとチャンネル作成に使うツ

ール類は同じ人が操作する必要はないので、ある部門で独自に作成したチャンネルコンテンツを部門が管理するウェブサーバーに置いておけば、ネットワーク管理者の手をわずらわすことなく情報を配信できる。

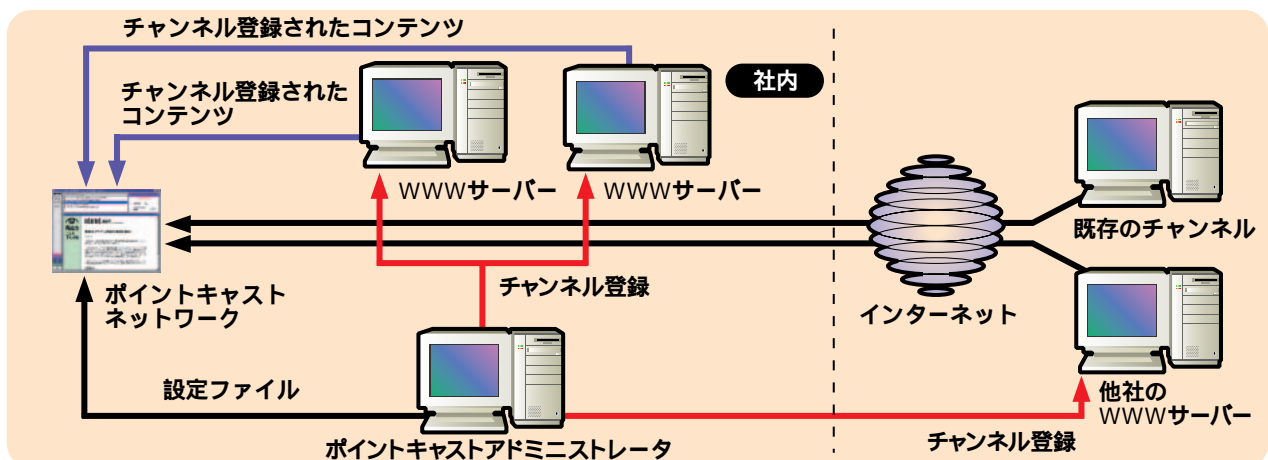
イントラネット放送ツールもポイントキャストネットワーククライアントもすべて無料で配布されているのだから、これに無料のウェブサーバーを利用すれば完全にフリーなソフトウェアだけでプッシュ型の情報配信を社内内で実現できる。

小さな事業所ならまだしも、大企業となれば簡単な内容の情報でもそれをくまなく広報するには、かなりのコストがかかるだろう。それが無料でできるだけでも導入する価値はある。

ウェブによる情報提供を促進する

イントラネットによる情報共有は情報をウェブに集約することだと考える。ウェブを中心として情報にアクセスする手段が完成されたならば、それをWWWブラウザを使いこなしていないユーザーにも簡単に参照できるようにすることが大切だ。ポイントキャストのイントラネット放送ツールを使えば、できあがったウェブコンテンツをすぐにでも配信できる。ウェブによる情報提供を促進するための強力なツールといえるだろう。

ポイントキャストを使った情報システムの例



ウェブコンテンツであればチャンネルに登録できるので、社内の簡単な情報から他社の情報やビジネスデータなど多くの情報を配信できる。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp